アルミ由来水素で発電

アルハイテック　事業化調査に着手

資源リサイクルを手がけるアルハイテック（富山県高岡市）は7日、アルミ廃材から発生させた水素を燃料に使う火力発電の事業化調査に着手すると発表した。環境省の助成金を受けて2024年2月末まで調査を進め、26年ごろの事業化を目指す。同社はアルミを反応液を使って化学反応させ、水素を取り出す技術を持っており、企業や自治体のニーズが高い発電に生かす。

事業化調査の総費用は1015万円で、そのうち1000万円を助成金で賄う。技術開発のほかビジネスモデルも検証する。自動車や建材で使ったアルミから水素を取り出して発電し、副生物の水酸化アルミはカーテンやカーペットなどの材料として生かす。

同社によると、富山県内で26年に発電能力320キロワットの水素火力発電プラントの稼働を計画している。将来的には全国1000～3000カ所で1000キロワット程度のプラントの設置を見込んでいる。